



# が見つけた遠隔授業での学び

本企画は、遠隔授業を受けている福大生の皆さんにインタビューし、遠隔授業での学びや大学生活について紹介するものです。学生の皆さんには、同じ学友としての仲間が苦労しながらも頑張っている姿をおして、少しでもヒントを得てもらえればと思っています。七隈キャンパスに集えない状況ですが、福大生たちが共に学んでいる様子をお伝えしていきます。



商学部貿易学科  
3年次生  
赤木 勇磨 さん

## Case3: 遠隔だからこそ先じる

今回のインタビューに答えてくれたのは、商学部貿易学科3年次生の赤木勇磨さんです。赤木さんは、自粛期間でもゲームクリエイティブの活動を始めると、自ら一歩踏み出す活動に果敢に挑戦しています。そんな“しなやかな強靭さ”を持つ赤木さんに、遠隔授業での学生アシスタントの経験、授業内外の取り組みと新入生との話、コミュニティの大切さ等々…その辺りのお話を伺いました。

### 遠隔授業のココが良い！

これまではゼミ形式の少人数授業を中心に履修してきましたが、今年は専門教育科目の大人数講義がメインになっています。大人数の遠隔授業は、大講義室で先生の話聞いている授業とあまり変わらない印象を受けています。**個人的には対面授業よりもリラックスして受けられるので、遠隔授業のほうがめり込んで集中して聞いていますね。**パソコンで受講するのでGoogleのタブなどは常に開いた状態にして、先生が講義した内容でわからない単語とかはいつでも調べられるようにしています。

もともと少人数授業が好きなこともあり、特に専門ゼミはとても楽しく受けています。先生が「Zoom」の機能を使ってグループ分けをしてくれるので、遠隔授業であっても、グループワークをしたり、課題研究に向けて取り組んだりしています。

遠隔授業の長所は、遅刻がほとんどなくなることじゃないでしょうか。福大は総合キャンパスなので、前々から休憩時間10分での移動は厳しいと思っていました。**授業の合間に慌てることなく、ネット上で移動できるのは長所だ**と思います。あと、グループワークなどが行われるアクティブラーニング型授業で特に感じることで、対面授業だと教室環境による制約って大きいと思うんです。それが**遠隔授業だと、先生がオンラインのツールを駆使して、工夫しながら授業を作ってくださいるので、授業を受ける側としては面白い**ですね。

### 遠隔授業のココが困った！

授業プリントを印刷することが割と多くて…FU\_box等にPDFでアップされていても「手元にコピーしといてね」と先生から言われることもあります。特に一人暮らしだったりして印刷環境が整っていないと、厳しい状況かもしれないですね。

**「自分の気持ちが直接伝わる」ことが対面授業の良さ**だと思っていて、僕は質問があったらすぐ先生に質問したり、研究室に直接聞きに行っていました。これは学生の特権

の一つだと思うのですが、それが気軽に出来ないのは僕にとっては遠隔授業の短所になっているので、この現状はとても残念です。

### 遠隔授業で学生アシスタントを経験

大人数の講義は、先生によって特徴があると感じます。基本的には先生が一人で進めて行く授業が多いですが、発表や質問を促してくれるなど受講生に積極性を求めるタイプの授業はとても面白いです！他にも、受講生の中から学生アシスタントを毎回募って進行する授業もあります。**学生アシスタントは、学生がチャットに書き込む質問などから学生の状況を把握することで、先生との仲介役**を担うんですが、授業毎の立候補制なので、自分も先日学生アシスタントに挑戦してみました。やってみると授業をより積極的に聴けるし、授業の進行に対する身構えもいつもよりできる感じです。それとこの授業では先生の説明や質問の時に「出来る人は自分の画面をオンにしてください」と指示があります。これも積極的に受講しやすくなる要因ですね。遠隔授業では自分の顔を写すのに抵抗がある学生も多いとは思いますが、配慮された授業の進め方のおかげで比較的最小限が顔を出しやすくなっていると思います。一人が手を挙げると他の学生も手を挙げていて、みんなの様子もうかがい知れるのでこの授業は活気があります。他の受講生の意見もたくさん聞けて楽しい授業です。



遠隔授業を受けている様子

### 課題は出されたらすぐにやる！

オンデマンド型の授業では、動画が配信されたらすぐに見て課題にも即取り組んでいます！他にも最初の20分間がリアルタイム配信型の授業で、前回の課題の良かった点の総評や先生への質問の時間の後に、オンデマンド型授業に切り替わる授業もあって、その流れもあってか、課題には

できるだけすぐに取り組む姿勢が出来てきています。

教材配信型の授業の課題も同様ですすぐやるようにしています！資料で学習をしたら、小テストや課題をするという形式が多く、その数の多さも相まってか僕の周りでは「提出期限の管理が難しい」という声をよく聞きます。課題を溜めすぎると、提出期限を把握できなくなり何から取り組んで良いかわからなくなるという悪循環に陥ります。時間がかかる課題ではないことも多いので、「先に終わらせよう！」という普段の姿勢が大事だと思っています。

## コミュニティの大切さを実感

遠隔授業だと授業での受講生同士のつながりは全然ないんですが、サークルのメンバーとは普段からよく話をします。コミュニティに属していると、授業に関する情報の共有はできなくても、最近のことや悩みを話せるので、自分の気持ちが楽になっている感じです。ただ、サークル活動自体はできなくて新歓期間もなかったのが、多分どの団体でも同じだと思うんですけど、**新入生が入って来ないことが、新入生にとっても、僕たち在校生にとっても、すごく辛かったです。**Twitterを通じて新入生に話を聞く機会があったんですけど、「そもそもどんなサークルがあるのかわかんない」と言っていました。サークルの雰囲気や活動もわからないので、サークルに入りたいと希望していても、入れていない1年生はたくさんいると思います。

商学部のとあるゼミでは、部活動、サークル、同好会などを紹介するウェブページを関係者に声をかけて作っているそうです。また、商学部の先生が「オンラインオフィスアワー」としてSNS上で「この時間空いてますがお話しに来ませんか？」と声をかけてくださっています。僕も参加して世間話や雑談をしましたが、コミュニティに属していないので「話をする機会がない」「話し相手が欲しい」という1年生の声を聞きました。この遠隔授業下では**知らない人と話すことの緊張感よりも、人と話せる安心感の方が大きい**みたいで、知らない人同士でも、みんなホッとした表情をしていました。授業面でのサポートだけでなくコミュニティ面のサポートも必要だと思います。

## 自粛期間からゲームクリエイティブの活動を展開！

これまではアナログゲーム（コンピュータを使用しない様々なゲーム）を体験できるカフェでアルバイトをしてい

ましたが、接客業ということもあり自粛期間中はお休みでした。なので、アナログゲームのデジタル化について、その方法を考えていました。例えば、対面でやっていた人狼ゲーム（話し合いで人間の中に紛れている人狼を見破るゲーム）を、情報を可視化するツールを使ってネット上でやってみるといった具合です。今まで対面でしかできなかったことをオンラインでできるように、新しいツールを導入する作業は、とても達成感があります。

今は、ゲームクリエイティブの活動を少しずつして、アナログゲームをネット上で出来るように開発して、それを創作ゲームとして販売しています。最近、月に1本出そうと頑張っています。元々ゲームクリエイティブの活動をしようと思ってはいたんですけど、自粛期間をきっかけに、「やってみよう！」と一歩踏み出すことができました。ゼミでも、アナログゲーム業界の今後や、アナログゲームをたしなむ人のコミュニティ形成について研究しているので、今後も継続していきたいです。



所有している様々なアナログゲーム

## 福大生へのエール

### コミュニティ探しにチャレンジしてみよう！

大学では、自分から動かないとコミュニティに属せないと思います。それは対面授業でも遠隔授業でも同じなんじゃないかなと。気軽に話せる仲間を見つける力を養って欲しいと思いますが、自分から探すという行動自体にはとても力がいらいますね。まずは興味があることに少し首を突っ込んでみて、一歩引かずに挑戦して欲しいと思います。合わなかったら合わなかったで、自分にはこれは合わなかったんだ、ということがわかるだけでも違うので。とりあえずやってみて自分に合うものを見つけてくれたらなと思います。



注：Webでインタビューさせて頂いた内容を元に再構成しています。文責は、インタビュー担当者にあります。



## 目指せ！遠隔授業マスター☆

### 今回のキーワード：経験学習

「若い時の苦労は買ってでもせよ」という言葉がありますね。これをどう解釈するかは人それぞれですが、そもそもそれが“苦労”であるのかもわからないと買うこともできない訳で…赤木さんのエールにもあるように、まずは経験を積んでみることに価値があるのかもしれないですね。経験の繰り返し皆さんなりの物事を見る眼（基準）を養ってくれるはずですよ！成功体験も失敗体験も、経験によって得たことをいかに自分なりの学びに還元するのか、人間の永遠の課題ですね（シミジミ）。



編集・発行：福岡大学教育開発支援機構（A棟地下1階）

内線：2852・2853 E-mail：kyokiko@adm.fukuoka-u.ac.jp

HP：http://www.idshe.fukuoka-u.ac.jp/ Twitter：@fu\_idshe

令和2年8月5日発行